

予 算 要 求 資 料

令和5年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：林業費 目：県産材流通対策費

事業名 木材生産高性能林業機械導入促進(基盤づくり)事業費補助金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

林政部 森林経営課 スマート林業推進係 電話番号：058-272-8489

E-mail：c11515@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 31,266 千円 (前年度予算額：27,117 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	27,117	27,117	0	0	0	0	0	0	0
要求額	31,266	31,266	0	0	0	0	0	0	0
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

国では森林・林業基本法に基づく森林林業基本計画により国産材の供給量を令和12年度までに42百万m³とする計画としている。

岐阜県では、第4期森林づくり基本計画の令和8年度木材生産目標65万m³の達成に向けて、林業事業者が行う高性能林業機械整備を支援することで、木材生産量の拡大、生産性の向上を図っている。

林業事業者の高性能林業機械を導入する経費を助成し、機械化による木材生産量の拡大、生産性の向上、作業システムの改善を図ってきた結果、令和3年度の木材生産目標60万m³に対して実績は57.6万m³と概ね目標を達成できたが、生産性は5.1m³/人日で、林野庁が掲げる全国目標には及ばない。

今後、既存大規模加工施設の製造ライン増強、木質バイオマス発電施設による木材需要が益々増加すると見込まれる中、安定供給のためには更なる木材生産量増加と生産性向上が求められる。

(2) 事業内容

(ア) 事業目的・事業効果

木材生産の拡大と効率的な木材生産体制の強化を図るため、従来の高性能林業機械より高性能な機械の導入、リースを受ける意欲と能力のある林業経営者に対して助成する。

(イ) 内容

補助対象 高性能林業機械等

(タローヤダ、スイングヤダ、プロセッサ、フォワード等)

(3) 県負担・補助率の考え方

国10/10

補助率 4/10以内(クローヤータ、スイングヤータ、ロングリーチハーベスタ、ロングリーチグリップル)

1/3以内(4/10以内以外の機械)

ただし、林野庁長官が定める要領に基づき、実践体制評価認定を受けているなど一定条件を満たしている場合は1/2以内

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	31,266	高性能林業機械導入等の支援
合計	31,266	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

第4期岐阜県森林づくり基本計画

2 林業・木材産業の振興

(2) DXの推進による林業・木材産業改革

(イ) 木材の安定供給と森林所有者への利益還元

(c) 高性能林業機械の導入等によるスマート林業の推進

(2) 国・他県の状況

国は国補助事業(林業・木材産業成長産業化促進対策交付金)において意欲と能力のある林業経営者育成を図るため高性能林業機械の導入等の支援をしているため各都道府県が活用している。

(3) 後年度の財政負担

国庫補助事業を活用し継続的に支援する。

(4) 事業主体及びその妥当性

1) 事業主体: 県が選定した育成を図る林業経営体

2) 妥当性: 国要綱(森林・林業・木材産業グリーン成長総合対策補助金等交付要綱)に基づくもので、事業主体として妥当である。

事業評価調書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

高性能林業機械と路網を組み合わせた効率的な木材生産システムの導入を進め、事業規模（木材生産量）を増大できる事業体を養成することにより、地域の森林の整備を促進する。

第4期岐阜県森林づくり基本計画終了年度の令和8年度に、木材生産量65万 m^3 、木材生産性7.0 m^3 /人日を達成する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (H27)	R3年度 実績	R4年度 目標	R5年度 目標	終期目標 (R8)	達成率
①木材生産量 (千 m^3)	438	576	600	612	650	89%
②木材生産性 (m^3 /人日)	4.2	5.1	5.7	6.0	7.0	73%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	令和2年度に4事業体が行った高性能林業機械11台の導入に対して助成した。 令和2年度に高性能林業機械を導入した事業体の木材生産量の合計は、機械導入直前年度は45千 m^3 であるが、令和7年度（機械導入から5年目）には1.6倍の70千 m^3 にまで増やす計画である。
令和3年度	令和3年度に4事業体が行った高性能林業機械6台の導入に対して助成した。 令和3年度に高性能林業機械を導入した事業体の木材生産量の合計は、機械導入直前年度は38千 m^3 であるが、令和8年度（機械導入から5年目）には1.5倍の56千 m^3 にまで増やす計画である。
	指標① 目標：600千 m^3 実績：576千 m^3 達成率：96%
令和4年度	令和6年度当初予算にて追加
	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・ 事業の必要性 (社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) <small>3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</small></p>	
(評価) 3	<p>既存工場の製造ライン増強、木質バイオマス発電施設の新規稼働等、今後増々木材需要が拡大すると見込まれる中、高性能林業機械の導入は、木材生産量の増加、生産性の向上に有効な手段である。 1台当たりの導入経費は高価であり、導入経費の一部を公費負担しリスクを軽減することにより、機械の導入が促進される。</p>
<p>・ 事業の有効性 (指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) <small>3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない</small></p>	
(評価) 2	<p>高性能林業機械の導入に合わせて木材生産量、素材生産性も増加傾向にあるため、事業効果は高い。</p>
<p>・ 事業の効率性 (事業の実施方法の効率化は図られているか) <small>2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</small></p>	
(評価) 1	<p>事業計画提出前には外部の委員による事前評価を受けるとともに、事業の承認時には機械規模・機種の必要性、機械経費の妥当性を再度検討することにより、経費の節減を図っている。</p>

(今後の課題)

<p>・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 今後、更に木材生産性を高めるためには、高性能林業機械の導入とともに、作業システムの見直しや工程管理改善の取り組みが重要となる。</p>

(次年度の方向性)

<p>・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 事業継続を望む声も多く、引き続き、木材生産量の拡大、効率的な木材生産体制の強化を図るために、高性能林業機械導入する林業事業体を支援する。</p>

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課</p>	【〇〇課】
<p>組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など</p>	